



20年前と同じ教科書
日本が協力して改訂

ミャンマーの小学校では、日本よりも2カ月遅い6月に新年度が始まる。昨年6月1日、全国の小学校に入学した約130万人の1年生に配布されたのは、真新しい教科書だ。実は、日本はこの教科書作りを4年前から支援してきた。新しい1年生の教科書は、色鮮やかな見た目でイラストも多く、内容もこれまで使われていたものから一新されて、子どもたちが楽しく学べるような仕掛けが取り入れられている。

それから8カ月が経った今年2月、1年生の授業を全て終えた児童に話を聞くと、「ミャンマー語の授業で、詩を読むのが面白かった」と7歳のチェージントンハンちゃんが入っているという。

「毎日、学校が楽しい」と話してくれたのは、7歳のカウんセツトー君。2人とも新しい教科書を気に入っているという。

ミャンマーで新しい教科書を作ることにした背景には、同国で軍政権時代から続いていた暗記中心型の教育スタイルを変えようという試みがある。教科書の内容をひたすら暗記し、先生が言ったことを児童全員で復唱しながら覚えるのが、ミャンマーの典型的な授業風景だった。カウんセツトー君の母親のキンサンテイさんも、「今は大学生の長女が小学校に通っていたところは、教科書は文字ばかり、授業は暗記ばかりで、学校に行くのを嫌がっていました」と話していた。

未来を拓く教科書

児童の中退率の高さが問題となっているミャンマーの小学校。その背景には、家庭の経済状況やアクセスの問題だけでなく、教科書の内容をひたすら覚え、それを試験でどれだけ答えられるかによって進級・進学が決まる“暗記中心型教育”がある。子どもたちが主体的に学べる“児童中心型教育”への転換を図り、今、ミャンマーの教科書が変わりつつある。

新しい1年生の教科書。理科の教科書(写真下)では、動植物の名前をひたすら暗記していた従来のスタイルから、学校の周辺などで観察しながら動植物の特徴を学ぶスタイルに変わっている(白黒の教科書が、従来使われていたもの)



「今回のプロジェクトでは、国語、算数、理科、社会、英語の主要5教科に加え、芸術(音楽・図工)や体育など、これまでミャンマーでほとんど教えられてこなかった教科も含めた全9教科・10科目の教科書を作成しています。過去の他の国で理科の教科書開発に関わったことはありませんが、ここまで規模の大きな取り組みは初めてです」と、プロジェクトの総括を務める加藤徳夫さんは話す。

対象とする教科の数だけでなく、実施体制も大規模だ。日本から約40人の専門家が断続的に現地に派遣され、一方のミャンマー側は、教育省の職員、小学校の教員、教員養成校の職員、大学教授の4者が集まり、教科ごとに「カリキュラム開発チーム」を編成して新しい教科書を作成している。

カリキュラム開発リーダーを担う田中義隆専門家は、新しい教科書は、グローバル社会で活躍するために必要な「21世紀型スキル」が身に付く内容を目指していると話す。「コミュニケーション能力や問題解決力といったアメリカ発祥の21世紀型スキルに、知的能力、身体能力、倫理観などミャンマーの仏教思想に基づく5大能力を合わせた「ミャンマー式21世紀型スキル」を大きな指針として、教科書を作っています」



音楽の教科書に載せる楽譜について現地スタッフと話し合う山岡専門家(手前)

総勢120人のプロジェクトチームのメンバーが作業を行っているヤンゴンの事務所を訪ねた。4階建ての事務所の中には教科ごとに作業部屋が設けられており、各チームの専門家とスタッフが議論を重ねながら教科書作りを進めている。毎年1学年分ずつ教科書を作成しており、2016年は1年生、2017年には2年生の教科書が完成。筆者が訪問した2月下旬は、まさに3年生の教科書作りが始まったところだった。

ヤンゴン市内の小学校。これまでは教員が一方向的に教える教育スタイルだったが、新しい教科書で学ぶ1年生は授業中も活発に発言している



音楽の教員研修の様子。初めて音楽の授業を行う教員も多く、笛の吹き方から練習している



体育の教員研修では、実際に児童と一緒に体を動かしながら、授業の進め方や教え方を身に付けている

む内容や言葉・表現が適切であるかなど、いろいろな意見や要望が寄せられ、それをもとに私たちが修正を加えます。このやり取りを何度か繰り返しながら、紙面の内容を改良していきます」と理科チームの現地スタッフの一人が話してくれました。SWCは、大学教授をはじめ各教科の専門的な知識を有する人たちが構成され、教科書が出版するためには、第一段階としてSWCの承認が必要になるのだ。

総括の加藤専門家は、「SWCの多くは、その学問の専門家ではあるものの、子どもへの指導法など教育分野にはあまり詳しくありません。ともすれば知識を詰め込むタイプの教科書になってしまい、重要なことを説明しながら、折り合いをつけていくのが難しいところだ」と話す。そんな中、SWCのメンバーを日本に招き、研修を通じて彼らに日本の学校現場での授業を見もらったことで、プロジェクトの意図についてより理解を深めてもらえたという。

SWCの審査を通過した後には、教育省から独立した組織である国家カリキュラム委員会(NCC)の承認を得て、晴れて教科書の出版が決定する。2016年に作成した1年生の教科書は、当時まだ設立されたばかりのNCCが初めて審査する教科書となったため、予想以上に時間を要した。一時は出版が危ぶまれる事態にもなったが、加藤専門家がミャンマーの教育大臣にも懸命に働き掛けを行い、翌年1月ようやく承認されたのだ。苦労した分、新年度の始

まりに間に合ったときの感動はひとしおだったと、加藤専門家は振り返る。実際に授業を行った1年生の教員たちからも、新しい教科書の良さを実感する声がかかっている。ニュウニユッテイ先生は、「子どもたちが前よりも授業に興味を持つようになり、質問されることも多くなりました。音楽や体育は私も身も楽しみなが授業を行っていただきますと話していた。保護者からは、友達と協力しながら取り組む学習が増えたことで、進んで家事を手伝うなど、生活面でも変化が表れているとの意見も聞かれた。

今後、プロジェクトでは引き続き3〜5年生の教科書を作成していくとともに、従来の試験重視型に替わる新しい評価方法の提案や、テレビやラジオを通じた広報活動、教科書改訂による影響の調査・分析などにも力を入れていく方針だ。

現地で話を聞いた2人の1年生に将来の夢を尋ねると、「お医者さんになりたい」とカウンセッター君。チェーリントンハンちゃんは、「歌手になりたい」と少し恥ずかしそうにしながら教えてくれた。未来を担う子どもたちが、自信を持って自分の夢に向かって羽ばたいていける学校に。新しい教科書は、子どもたちの可能性を伸ばす希望の光となるだろう。

(編集部 中森雅人)



図工のトライアル授業の様子。新しい教科書では友達と協力して取り組む学習が多く、チームワークの大切さも学んでいる

今回のプロジェクトでは、民間の出版社である教育出版株式会社と専門家チームに加わっていることも特徴の一つだ。同社は70年近くにわたり日本の教科書制作に携わってきたノウハウを生かして、編集やデザインなどの面でプロジェクトに協力している。同社から派遣されている松原紀男専門家は、「パソコンに原稿や写真、イラストなどのデータを取り込んで紙面を制作する手順や、校正のやり方など、技術面も含めて教えています。ワープロしか使ったことがなかった教育省の職員もいましたが、一生懸命勉強して徐々に技術を身に付けています」と話す。日本のように既存の教科書をもとに改訂を行うので

はなく、全く新しい教科書を一から作るというところに、松原専門家は難しさを感じているという。「例えば、教科書に使う文字の書体やフォントの大きさを検討することから始めましたし、文章中の表現一つとっても、各学年の児童が理解できる適切な言葉を選ばなければなりません。初めの段階で、編集やデザイン担当者だけでなくカリキュラム開発チームとも一緒に、子どもの発達段階に応じた適切な誌面構成を考えていくことが大切になります」

一方、教科書の作成と並行して、教員が新しい教科書を使って授業を実践していくための研修も行っている。この研修も毎年1学年ずつ行っており、現地の人たち自身の手で実施できるようにと、中央州、地区、学校の4つの階層ごとに研修を行う「カスケード方式」を導入。中央研修で養成されたトレーナーが、次に各州での研修講師を務め、そこで養成されたトレーナーが今度は各地区の講師を務め、最終的には全国約4万5000校の小学校の教員たちに、教科書の使い方を普及していく仕組みだ。

研修は、児童役と教員役のロールプレイを行うなど実践的な内容となっている。研修のモニタリングを担当する太田美穂専門家は、「先生たちも頭ではよく理解しているけど、研修でいざ模擬授業をやってみると従来の暗記中心型の教え方になってしまっている人もあるので、繰り返しトレーニングすることが大切だと感じました。現職の教員だけでなく、教員養成校に通う学生向けの研修もこれから行います」と話す。



プロジェクト事務所には、教科書のイラストを手掛けるスタッフも。松原専門家は「今後は彼らのスキルアップも図っていきたい」と語る

編集作業に教員研修 幅広い業務を支える人たち

的に考えたり行動したりできるような内容に刷新している。計算式を暗記していた算数は、どういふ場面で足し算や引き算を使うのかという概念や背景から学ぶスタイルに。単語や文章を暗記していたミャンマー語も、現代の物語や歴史の話、ミャンマー伝統の昔話などさまざまな文章を読むことで、読解力を身に付ける学習を重視している。

昨年6月、全国の1年生に新しい教科書が配られた際には、ミャンマーの教育大臣も学校を訪れた

